

## 平成28年度 第1回地域医療総合対策協議会【議事録】

---

---

### 【開催要領】

- 1 日 時 平成28年9月6日（火） 午後7時～午後8時
  - 2 場 所 徳島グランヴィリオホテル
  - 3 参加者 委員29名のうち21名出席
- 
- 

### 【会議次第】

- 1 開 会
  - 2 議 事
    - (1) 会長の選任及び医師派遣調整等部会委員の指名等について
    - (2) 地域医療介護総合確保基金にかかる県計画（医療分）（案）について
    - (3) その他
  - 3 閉 会
- 
- 

### 【議事概要】

#### ■議事（1）会長の選任及び医師派遣調整等部会委員の指名等について

○委員の互選により、会長を決定

#### ■議事（2）地域医療介護総合確保基金にかかる県計画（医療分）（案）について

○県医療政策課地域医療・鳴門病院担当 佐藤係長が説明。

○質疑応答

<会長>

「アウトカム指標」と、「事業の目標」との関係について教えてもらいたい。

<事務局>

平成27年度の県計画においては、事業終了後に厚生労働省の指示により、アウトカム指標が事後評価に加わったため理解しにくいですが、平成28年度の県計画においては、アウトプット指標・アウトカム指標という形で示されている。

例えば、「（在宅のための）研修を受けた人数」が「事業の目標」で、「それによって在宅を行う医師が何人増えたか」がアウトカム指標となる。

#### < A 委員 >

資料1のところで、申請額に対して内示額が到達していないということで、昨年度の執行残から執行分を充当するということだが、今年度への充当額はいくらか。また、来年度もこういう話があると思うが、そこらの関係はどうなっているのか。

#### < 事務局 >

昨年度の執行残を今年度使う金額としては、1億5千万円程を予定としている。

平成27年度は効率的に運用していただいたために1億5千万円が執行残として使えたが、来年はそれを使っている為、さらに厳しい状況になると思われる。国は病床機能分化連携を重視して行うと言っているため、来年度以降も、在宅推進事業や医療従事者の養成・確保事業は厳しい状況が続くのではないかとと思われる。

### ■議事(3) その他

○B委員が説明。

○質疑応答

#### < B 委員 >

資料を配付させていただく。(資料配布)

産科医療について話をしたい。配布した資料の説明をする。現在は診療所と病院が約半分ずつ。県内の出生数は減っているが、公的施設の分娩数は徐々に増えている。徳島県内の分娩施設の分布状況を見ると、民間施設は激減している。その理由は必ずしも医師個人の希望ではない。看護師が雇えないことも要因としてある。看護師側は給与の問題で、民間は公的施設よりも給料を高く設定できず、不満を持つ。民間施設にもある程度補助を頂ければありがたい。

#### < 事務局 >

資料1のP.3中段辺りに(イ)の7番目に、『産科医等確保支援事業』という事業があり、これは分娩1件当たり1万円の分娩手当をドクターに支給される医療機関に補助を行う事業であり、本年度の計画では2,700万円になっている。昨年度の実績でも、2,700万円程度あり、全体で16医療機関のうち、民間医療機関についても8医療機関の補助を実施している。

産科とは話が外れるが、医療機関を対象に「在宅医療機器等整備事業」という事業があり、34の民間医療機関に補助を行っている。

総合確保基金は、各医療機関から提案を受けた事業を計画に盛り込んでいる。来年度の事業について、事業提案をお受けする時期が来るので、その際にご相談いただければ、柔軟に対応しようと考えている。

#### < B 委員 >

分娩手当の事があったが、県からの補助は、公的病院は2/3を補助し、民間病院は1/3しか補助されないという差を考慮していただけたらと思う。

また、民間が減ると公的病院の医療従事者は疲弊してしまい、ますます産科医離れが進んでしまう。

#### < 事務局 >

この事業は、国庫補助事業から基金に移行した事業であるため、元々の国庫補助事業の補助率である公立は2/3、民間は1/3という率になっている。ただ、補助率はそのままだまにしなければいけないものでもない為、この部分は再検討する。

#### < C 委員 >

有床診療所が減っている。減少の理由は、産科も一緒に、高齢化と継承問題で、跡継ぎがないというのが大きな問題になっている。看護師・助産師がないのも大きな問題となっている。地域でお産をする為には医療安全ということで、民間病院のお産のバックアップを公的病院がやっていただければ、民間の病院もお産を続けられると思うので、県としても、全体としてお産をやっていくんだという観点からご指導いただけたらと思う。

#### < D 委員 >

県南地域では、分娩施設だけではなく、一般病院も同じような形で、那賀町には上那賀病院しかなくて、海部郡には3、4つの病院しかなくて、その中で県南の中心というのは、海部病院になっているが、それが近未来では海部病院ではお産が出来なくなるということなのか。

#### < B 委員 >

私の推測である。海部病院の年間の分娩件数は1桁で、全く採算が取れず、継続する意味があるのかということ。

#### < D 委員 >

海部病院には、地域でお産が出来るように、産婦人科の先生を常駐させていたにも関わらず、年間2件しかお産がなかったという話を聞いた。地域で安心して子供を産めて、そこで安心して育てて暮らせる、そこで初めて住民が安心して暮らせる地域になるのではないかと思うが、この図を見ると、「県南地域では安心してお産が出来なくなっていくであろう」と当然のように予想されているのに、とても驚いている。

「上那賀病院でお産が出来ないと、那賀町に若い女性が帰って来て、安心して出産・育児ができる地域には出来ない」といつも思っているが、女性の方に話したら、「出産というのは特別なもので、その地域で出来なくても、少々遠くても、行ってするものですよ」と言われ、徳島県としては、ごく一部の所で安心して産めるということでもいいのかとも思ったりもした。

徳島県は決して田舎の県ではなく、近畿圏なので、どこに行っても安心して出産出来る地域になるように考えていくべきではないか。少なくとも、海部病院では安心して出産が出来るようにしてもらいたい。

出産だけでなく、救急も同様で、今は、遠い日赤に診ていただいているが、阿南に日赤に匹敵するような、救急を積極的にやってくれる病院が出来たらありがたいと思っている。そういう所をもっと本気で考えて貰いたい。

また、資料1の28年度の「病床機能分化・連携」における事業案の4番目のところで、医療機関を繋ぐwebカンファレンスシステム構築とあって、最近県内で、へき地においても最新の医療情報を得られるように、カンファレンスや講習会・勉強会等をやっている。実際にはなかなか参加出来ないが、肝炎の勉強会に関しては、上那賀病院でwebで繋いで毎回参加出来て、大変ありがたいと思っている。特にへき地においては、いつもwebを繋いで参加出来るように考えていただければありがたい。

#### <E委員>

中国四国厚生局で毎年、研修を終了した医師がどの方向に進んで行くかというデータを少し持っている。

回答率は70%のデータで、あくまでアンケートなので参考資料になるが、今年度3月修了者は中四国内で700人弱いるが、将来徳島県の中で産婦人科を目指すという人で、徳島県内で就業予定は2名である。実際に数が少ないので、そこを確保することを考えるのがより大切なのではないか。

実際に初期研修スタートの時に産婦人科を目指しているが、2年終わった時には最初の数より減ってしまう。現状の先輩たちの働き具合を見て、これは大変だなと方向を変えてしまう傾向があると思う。現状の産婦人科のドクターの就業環境を整えてあげることが、後輩の確保にも繋がるのではないだろうか。

#### <会長>

E委員から頂いた問題はなかなか難しい問題であると思う。B委員の近未来の推測が当たらないためにも、現状維持について努力しなければならない。看護関係の御意見が何かありますか。

#### <F委員>

助産師・看護師含め、病院だけでなく、有床・無床診療所、訪問看護師も不足している。その確保・養成に、看護協会も力を入れており、なかなか難しい状況の中だが、勤務環境の改善など一体となって、ワークライフバランスの推進にも取り組んでいる。また、看護職になってほしい、魅力ある看護師を目指してもらいたいというところで、学生さんに対し、イベントや色んな広報を通じて、看護の魅力を伝えていくなどの努力もしている。

<事務局>

先程、D委員からの御発言があった件について、基金も絡むので何点か回答したい。

海部病院は、実は一度分娩が休止になり、平成22年10月から分娩再開という経緯をたどっている。また、土曜日の救急の受入れも一度休止したが、平成23年11月から再開している。これらが可能になったのは、寄附講座というものがあり、徳島大学に寄附をして、それにより、医師の派遣をしてもらうシステムがある。資料P.3(2)の⑤地域医療支援センター運営事業に含まれている。

一方で、1桁台のお産を海部病院で続けていくのは、効率性の問題からそれがいいのかという意見がある一方で、少子化の時代に地域で安心してお産が出来るよう、体制を取るべきだという意見もある。そこの所で県も住民の方々の議論を踏まえて方向性を考えているところである。

<事務局>

議事を終了する。

—— 了 ——